


 いわき市立総合磐城共立病院

# 地域医療連携室だより

## ～IT化する医療情報とセキュリティ対策～

いわき市立総合磐城共立病院 副院長 市原利勝



以前より医療情報の遺漏に関して、医師等には守秘義務があり、罰則規定もありましたが、2003年5月に公布された個人情報保護法により、医療機関全体に対しても厳格な個人情報保護が要求されることとなりました。

近年、厚生労働省の指導の下で、電子カルテの導入、さらには、インターネット網などを用いた地域病診連携などが強く推進されている中、重要な個人情報を扱う医療機関における医療情報は、電子カルテ、オーダリングシステム、医事会計やレセプトなど急速なIT化が進行しています。病診連携な

どの医療機関のITネットワーク化や、製薬企業による治験情報にもインターネットが活用されています。

最近、全国でファイル交換ソフト（ウィニーなど）を通じた情報流失のニュースが頻繁に報告され、病院からも医師の個人PCから患者情報がネット上に流失する事例が後を絶たない状態です。これは公的と私的のパソコンが混在して使われていることが要因であり、更には、診療録がドクターの机の上に積み上げられたままの状態も散見されると言われています。医師が個人の症例を研究目的や学会発表に扱う際、匿名化するなどのルールが必要とされますが、現実として、個人情報保護の面からはまだまだの感であります。

病院のIT化が進んだといっても、当院においては完全なペーパーレスには程遠い状態であり、院内にはまだ、いろいろな形式の書類があり、何度も手書きをしている現状です。病診連携でも紹介状や診療情報はFAXでやりとりされ、診察室の上にそのFAX用紙が置かれていることもままあります。これらの状況は個人情報管理の面で大変心配であります。今後、地域医療の連携・IT化がさらにすすみ、一枚のカードに診療情報を記憶させ、患者が複数医療機関で受診でき、医療情報が共有される時代になるでしょう。安心・安全の医療が強く求められる現在、よりいっそうセキュリティの強固なネットワークシステムの構築が求められています。


**【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】**

電話 0246(26)2250(直通) FAX 0246(26)2119

 URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>

 E-mail [kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp](mailto:kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp)



診療科  
紹介

小 児 科

小 児 科  
渡 邊 信 雄

小児科は昭和36年4月に東北大学医学部小児科の協力で開設され、浜通り地域の小児医療の基幹病院として機能するまでに発展し、平成2年福島県立医科大学小児科の協力で当院にNICUが新設されて未熟児新生児科が独立し、今日に至っています。地理的に、福島、仙台、東京とも遠く、孤立した人口50万人強の診療圏の唯一の二次医療施設として、未熟児新生児科、小児外科と協力し合って診療に当たっています。

常勤スタッフは現在5名で専門領域は次の通りです。渡邊信雄(アレルギー、小児保健)、鈴木潤(血液)、藤江弘美(神経・発達)、鈴木保志朗(腎臓)、浅田洋司(血液)。さらに、平成16年に開始された新臨床研修制度を終了し、小児科を選んだ後期研修医 渡辺肇子が診療に当たっています。また、年間を通し6週間単位で2～3名ずつの初期研修医が小児科にローテートして研修を受けています。

当院小児科の使命には、地域における入院医療、専門医療、二次救急医療の確保と提供、医師の臨床研修の四つの柱があると考えています。

入院医療に関しては、中央病棟3階の小児病棟に小児内科・外科系混合の45床とNICU 6床、GCU 14床の未熟児新生児科病床 20床の合計65床が2看護単位で運営され、小児入院医療管理料1が算定出来る看護体制で運用されています。個室は10室ありますが、重症患者・免疫不全状態・伝染性の高い感染症患者などに差額料金なしで使用しています。小児病棟は入院患者の疾患の種類、感染性の有無、年齢差、性別などを考慮しながら、年間を通して24時間救急患者入院への対応も必要であり、さらに入院患者の季節変動が極めて大きく、他の診療科にない運用の特殊性と困難性がありますが、地域に唯一の施設であり、皆様のご理解とご支援をお願いします。小児科では2グループに分かれてのグループ診療を行っています。平成17年の入院医療では総退院患者数は1,579人、平均在院日数は5.7日、30日以上長期入院患者は16人と急性疾患が多くを占めています。

平成17年 退院患者疾患別内訳

呼吸器疾患	936	59.3%	川崎病	38	2.4%
消化器疾患	197	12.4%	膠原病・アレルギー	43	2.7%
神経疾患	152	9.6%	内分泌・代謝疾患	12	0.7%
感染症	63	4.0%	循環器疾患	20	1.3%
血液・腫瘍	48	3.0%	事故・誤飲・虐待	22	1.4%
腎・泌尿器	48	3.0%	死亡症例	3	0.18%

専門医療に関しては、近隣地域に分業できる施設がほとんど無く、これまで患者数の多い主要な疾患については地域完結型の医療が提供できるように専門医の確保や養成を行い体制を整備してきました。未熟児新生児医療はその代表的なものですが、産科入院中の新生児疾患は未熟児新生児科で、産科退院後の新生児疾患は小児科で扱うという分業を行っています。小児科医不足の現在は、専門医の確保は更に困難を極めており、一部は他施設の応援を受けて専門医



療の提供を継続している現状にあります。専門外来は、感染症を避けるために、午後に曜日を決めて組んでおり、感染性疾患の多い一般外来は原則として午前中しか診療していません。現在の専門外来体制は次の通りです。

曜 日	専門外来(午後1時30分から)・担当医
月 曜 日	心臓循環器疾患(森島)・血液疾患(浅田)・内分泌疾患(吉原)
火 曜 日	アレルギー(渡辺)・神経(藤江)・ヶ月健診(浅田)
水 曜 日	腎泌尿器(鈴木保志朗)・予防接種(渡辺)
木 曜 日	心臓循環器疾患(森・森島)・神経(藤江・柳沢)・血液疾患(鈴木潤)
金 曜 日	血液疾患(鈴木潤)・発達(藤江)・内分泌疾患(吉原)

小児の時間外救急診療は、開設当初から当院小児科勤務医の、さらに内科系医師の大きな負担として今日まで続いています。当地域の一次救急医療体制の整備が他地域に比して著しく遅れており、地域の診療体制からは二次医療を担当すべき当院に一次から高次までの救急医療が集中しています。小児の一次救急診療体制の整備については、具体的な検討がいわき市医師会小児科部会で始められたところですが、現在、上記の5名のスタッフと1名の後期研修医で担当しており、夜間は筆者を除く5名で担当し、午後10時までは全ての小児患者を診療し、それ以降は研修医と内科医師に一次診療は負担していただき、オンコール体制で診療しています。重症救急患者は救命救急センターで初期治療が行われています。スタッフは月に7回前後の当直を行っており、特に患者の集中するゴールデンウィーク、年末年始を含め代休は取れない診療が続いています。平成17年の小児救急患者数は全救急患者の34%に当たる10,966人でした。当院小児科に課せられた四つの使命を達成するために激務に耐えているスタッフの負担軽減のために、一次診療を主に診療している地域の小児科医療機関を主にした小児の一次救急医療体制の一日も早い構築が望まれるところです。

〈小児科医局員〉



診療科  
紹介

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科

館田 勝

耳鼻咽喉科は昭和36年9月1日に設置され、現在、常勤医5名（専門医3名、後期研修医2名）で診療にあっております。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の炎症、腫瘍、外傷、異物などは幅広く対応しています。1992年からのデータでは年間の退院数は594から812名(表1)、手術件数は411から505件(表2)でした。入院患者、手術症例ともに咽喉頭疾患が多く、次いで鼻疾患を多く認めます。外来は月曜日から金曜日の午前中、午後は火曜日が検査日で木曜日は学童のための外来を行っております。手術は月曜日、水曜日、金曜日の午前と午後に行っております。鼻疾患に対しては手術室のみならず病棟、外来にも硬性内視鏡を導入し手術、処置を行っております。最近では硬性内視鏡、軟性内視鏡を駆使しこれまで止血が困難であった難治性の後部鼻出血症例などに積極的に電気凝固による止血を試みています。また、手術室には半導体レーザーが導入され喉頭の嚢胞や腫瘍、中咽頭や下咽頭の早期がんなどに対し積極的に部分切除を行っております。

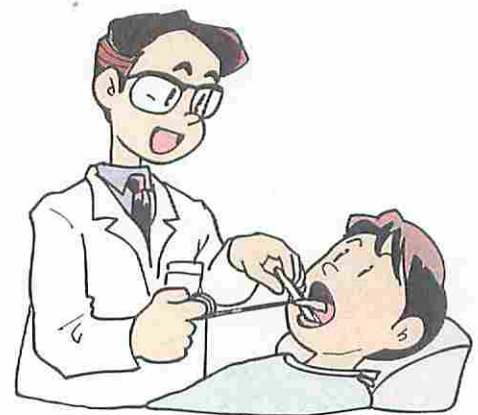


表1・退院数

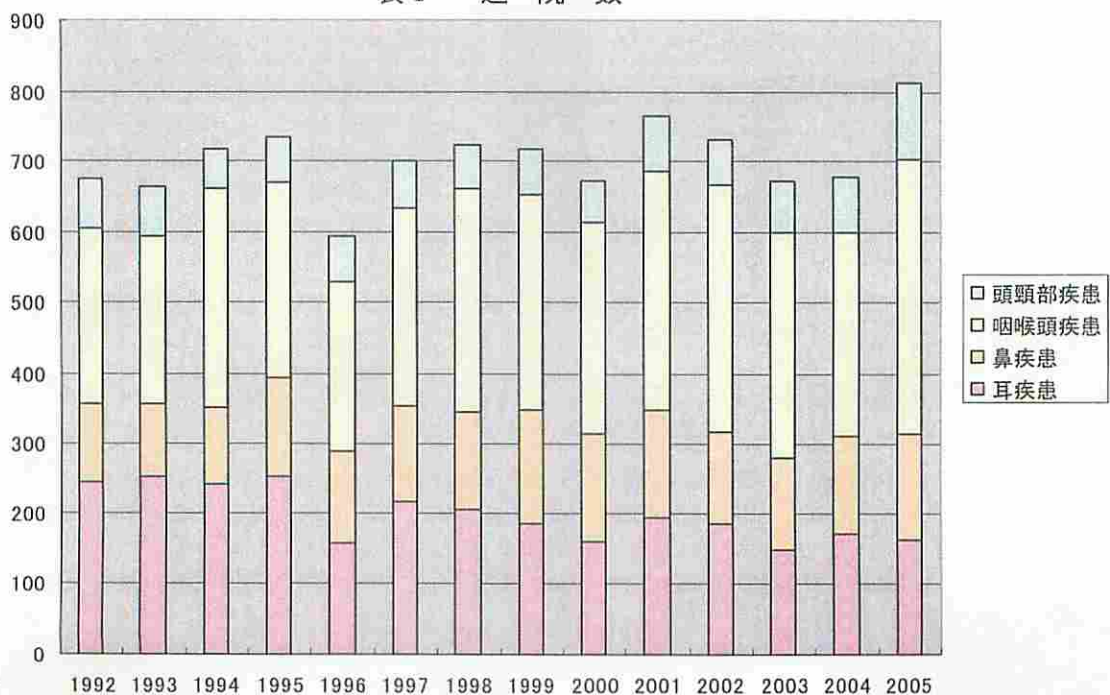
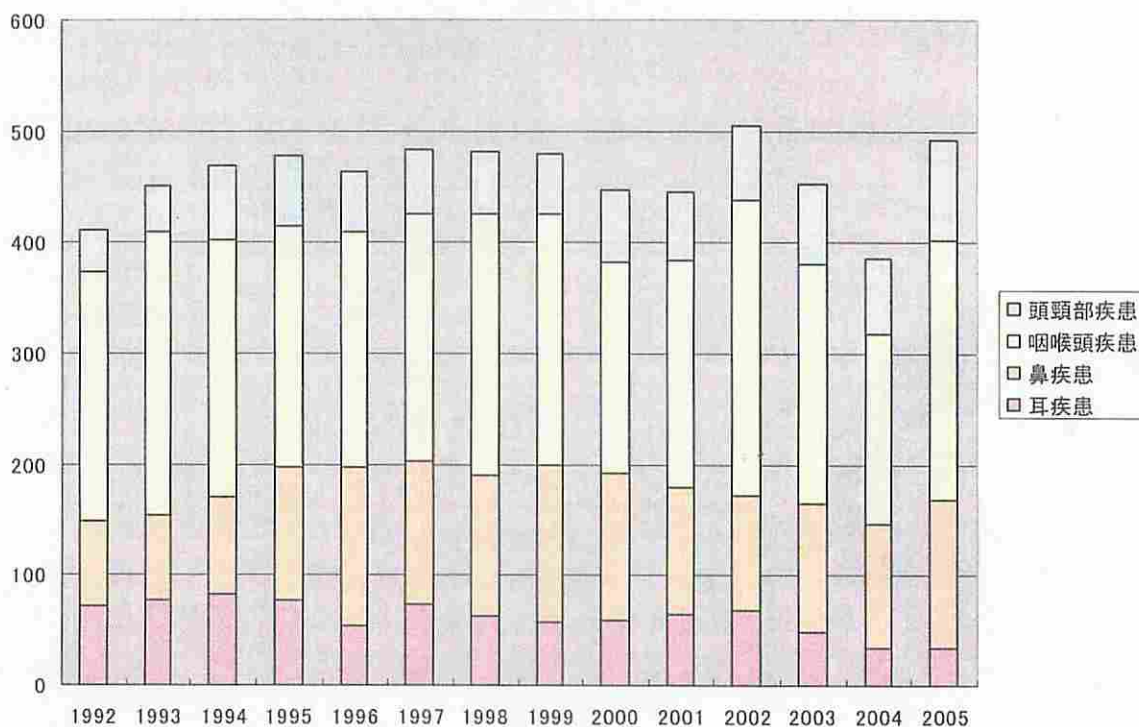




表2・手術件数



〈耳鼻咽喉科医局員〉



ようこそ!  
新任医師紹介



形成外科  
堂本 隆志 先生

こんにちは。  
堂本隆志と申します。  
大阪で生まれ育ちました。  
症例豊富なこちらで、  
有意義な日々を過ごせるよう精進いたします。



外科  
羽根田 祥 先生

7月より外科で働いております。  
スポーツや旅行が好きで、休日には  
いろいろと出歩いています。  
早く実力を伴った医者になれるよう  
に頑張りたいと思います。  
よろしくお祈いします。



外科  
吉松 軍平 先生

福岡に生まれ育ち、仙台で大学生を送り、  
北海道の帯広で研修生活をした後、千葉で働  
き、現在に至ります。  
全国各地で生活していますが、これからの  
いわき生活を楽しみにしています。  
よろしくお祈いします。



脳神経外科  
佐藤 健一 先生

どうぞよろしくお祈いします。



整形外科  
八田 卓久 先生

10月より整形外科医として  
勤務しています。  
宜しくお祈いします。



呼吸器外科  
米地 敦 先生

呼吸器外科の米地敦です。  
肺癌や気胸の診療にあたります。  
仙台出身ですが、いわきには幼少時に住んでいたこともあり懐かしい思いもあります。  
頑張りますのでよろしく申し上げます。



泌尿器科  
佐竹 洋平 先生

泌尿器科医としては、まだ経験が浅いのですが、  
いわき地区の尿路および男性生殖器疾患の治療に  
貢献できるようがんばります。



耳鼻咽喉科  
石田 英一 先生

10月より耳鼻咽喉科に配属になりました石田です。  
平成16年東北大卒、卒後2年間は東北労災病院で  
ローテーション研修し、今年の4月に東北大耳鼻科に  
入局しました。まだまだ未熟ですが、何卒宜しく  
お願い申し上げます。

5月から耳鼻咽喉科でお世話になっております。  
よろしくお願い致します。



耳鼻咽喉科  
片桐 克則 先生



## 地域医療連携室からのお知らせ

### 診療体制変更について

次の診療科につきましては、医師の退職などによりこれまでの医療水準を維持していくことが極めて困難な状況にあります。そこで診療体制を変更して診療しております。当院の事情を御理解の上、御協力をよろしくお願いいたします。

診療科名	内 容	変更日
神 経 内 科	○新患の患者様はお受けすることができません。つきましては、他の医療機関を御紹介下さるようお願いいたします。再診患者様のみの対応とさせていただきます。	18. 10. 1～
心臓血管外科	○予定手術のみの対応とさせていただきます。つきましては、大動脈瘤破裂、解離性動脈瘤など緊急救命手術が必要な症例の診断、若しくは、強く疑われる症例の場合は、市外の3次救急医療機関等へ御紹介をお願いいたします。なお、外来診療は従来どおり（月・水曜日の午前中）です。	18. 8. 1～
小 児 科	○平日午後の急患診察は、原則として、紹介患者様、救急車来院、再診患者様を対象といたします。 ○予防接種外来は、原則として、当院管理の慢性重症患者様、アレルギー患者様を対象に、水曜日午後のみ診療とさせていただきます。	18. 6. 1～
産 婦 人 科	○異常例並びにハイリスク妊産婦様(紹介患者様)のみの対応とさせていただきます。また、受診希望日につきましても月・水・金は午後手術日のため火・木に調整していただければ幸いです。 ○受付時間は、月・水・金は新患が10:30分、再来が11:00となっております。	18. 5. 22～ 18. 3. 1～
呼 吸 器 科	○内科は結核患者様と再診患者様のみの対応とさせていただきます。外科に関しましてはこの限りではありませんが、完全予約制となっておりますので御注意願います。	16. 7. 1～
皮 膚 科	○医療機関からの紹介状が必要となっております。また、完全予約制となっておりますので御注意願います。 予約は地域医療連携室をご利用くださるようお願いいたします。 診察日及び診察時間 火曜日 午前10時～午前中のみ 水曜日 午前8時30分～午前中のみ	16. 4. 1～

※当日の受診申込、救急申込はおこなっておりません。

※翌日の受診申込は午後3時までとなっております。

地域医療連携室業務時間

月～金 8:30～17:15